

上電友の会だより

「上毛電鉄友の会」の会報誌

第8号



(空っ風通信)

Joden Supporters Club

赤城山麓を走る電車

上電が設立されたのは大正15年(1926年)の5月27日。

84年目を迎えた2010年の設立記念日に、地域の足である上毛電鉄の末永い運行を目指して「上毛電鉄友の会」は発足いたしました。今年で発足して5年目、これからもみんなでサポートして上電を盛り上げよう!

挨

第8号発刊にあたって

会報第8号発刊にあたり、会員の皆様はもとより上電社員の皆様、沿線自治体や市民の皆様にご感謝申し上げます。本会設立から5年、様々な活動を上電とともに進めて参りました。過日、青森県の大学が本会をヒアリングする中で、鉄道事業者のスタンスが市民活動の存立と継続を左右するという考えを示しました。上電関係者の理解と協力のもと、何とか会としての体を保っているな、と改めて認識した次第です。

3月の北陸新幹線や上野東京ラインの開業など、華やかな話題が世の中を賑わせていますが、その裏には不採算路線の存続問題が地域の課題として表出します。事業者の経営努力と行政支援の限界との隙間を埋めることが、本会のような中間的組織の役割であり、微力ながらも地域の足を守る一助となれば幸いです。

(副代表兼事務局長 新保正夫)

判

友の会スタンプラリーは3月まで

今年も、友の会スタンプラリー開催中です。期間は2014年12月13日(土)から2015年3月15日(日)です。上毛電鉄線内では8つのスタンプ(7つの電車と大胡電車庫)と上信電鉄1つ(上州富岡駅)とわたらせ渓谷鐵道1つ(水沼駅 温泉センター内)に設置させていただきました。5つ以上スタンプを集めると抽選で5名さまに上電グッズがあります。コンプリートされた方には春開催予定のイベントでコンプリートグッズを差し上げます。またその中から3名さまには友の会オリジナルグッズを差し上げます。ぜひコンプリートを目指して上毛電鉄に乗りに来てください。

なお上毛電鉄の車両は1日6編成での運行となっております。運用については友の会のHPを見ていただきますようよろしくお願いいたします。

わたらせ渓谷鐵道と上毛電鉄の乗り換えは大間々駅と赤城駅、運動公園前と桐生球場前または桐生駅と西桐生駅が便利です。上信電鉄と上毛電鉄はJR両毛線以外にも中央前橋駅から上信バスの高崎行きというのがありますので行きと帰りで違う景色を楽しむのもありかと思います。(平岡隆一)



協

地域団体とのパートナーシップ

11月30日、前橋市・前橋市市民活動支援センター主催「地域・NPO・企業 パートナーシップのチャンス!」に新保副代表他3名で参加してきました。友の会を含め28団体が、前橋全体や地域に役立つ提案をしたり、他の団体や地域・企業などとつながりもめたりする発表を行いました。友の会では、上電グリーンボランティア清掃の参加者募集を中心に、新春イベントで使用するプラレールのレールの寄付依頼、上電パウンドの販売再開への協力依頼について発表を行いました。なお、発表の様子は、youtube(<https://www.youtube.com/watch?v=VWRJltvXirw>)にて公開されています。(塩島翔)

動

まえばし CM フェス 動画公開

赤城山の麓を走る上毛電気鉄道は前橋市、みどり市、桐生市の貴重な財産です。これからも地元の足として走り続けてくれることを願い1分間のCM動画として製作しました。

作品名タイトルは「赤城山がよく見える電車 上毛電気鉄道」。1日を通して赤城山の麓をひたむきに走る姿を描く作品です。ナレーションは「赤城いずみ」ちゃんの声を担当している、堀込聖美さんにご協力いただきました。いずみちゃんではない堀込さんのプロの声色も必聴です。

1月27日には1次審査を通過し公開コンテストに進むという連絡がありました。これを機に、どうぞ「赤城山がよく見える電車 上毛電気鉄道」をご覧ください。CMフェスの公開コンテスト日程は次の通りです。

(平岡隆一)

・前橋 CM フェス 公開コンテスト日程

- (1)日時 平成27年2月21日(土)14:00~18:00
- (2)会場 シネマまえばし(前橋市千代田町5-1-1 アーツ前橋3階)
- (3)定員 90人(当日先着順)
- (4)参加費 無料
- (5)内容 ・公開コンテスト、表彰式

前橋 CM フェス HP

<http://www.city.maebashi.gunma.jp/sisei/473/016/p012790.html>

前橋シティプロモーション(<http://www.maebashifilms.com/>)

上毛電鉄友の会 作品「赤城山がよく見える電車 上毛電気鉄道」

<http://youtu.be/NzPbTKF-u10>

通

Facebook ~タイムリーな話題を提供

平成26年度総会の承認を受け、上毛電鉄友の会ではFacebook(<https://www.facebook.com/jyodentomonokai>)の運用を開始しました。ホームページやブログでは、読者に閲覧してもらわなければなりません。しかし、Facebookは読者のタイムラインに記事が表示されるため、読者に情報を受けとりやすい利点があります。その利点を生かした友の会の情報発信を行い、鉄道愛好者や沿線住民に友の会の活動を理解してもらうため、運用を開始しました。平成27年1月31日現在300名の方が登録(いいね!)しています。Facebookページは、友の会の活動報告だけでなく、上毛電鉄のグッズ・ツアー・イベント等の紹介を随時行っています。今後は他の鉄道会社の支援団体のFacebookの紹介をすることで、他団体と情報交換等の交流をする機会を得られるようにしたいと考えています。(塩島翔)

続

会員継続のお願い

2015年度につきましても、上電友の会の活動を継続するにあたりまして、皆様のご支援をお願いいたします。4月以降、会員継続のお願いと会費振込書を送付させていただきますので、納入をお願いいたします。また、お知り合いの方で上電友の会の活動に興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介をお願いいたします。(児玉洋)



第一部は、東武博物館花上嘉成名誉館長、友の会大島登志彦代表、佐羽宏之副代表による「上電沿線の移り変わり」です。花上館長は赤城山観光について、1957年にケーブルカーが開業したのを機に東武線からの乗客が増え赤城山観光が最盛期を迎えます。しかし前橋からの道路整備が進むと乗客が激減し、ケーブルカーがわずか10年で廃止されます。花上館長は当時の貴重な資料をご紹介します。当時の盛況ぶりを見ると、もう少し何とかならなかったのかと残念に思いました。

次の佐羽副代表は、昭和期の桐生の様子に関し、古地図をスライドに投影しての発表や次回の友の会ハイキング企画について。最後に大島代表が上電の沿線人口、前橋市と桐生市の推移に触れ、戦災が少なかった桐生市に人口が流れて戦後初の国勢調査では桐生市が県内人口一位になったがその後すぐに前橋市に奪還されたことなどの話題を提供をしました。お三方のお話を拝聴し、富岡製糸場の世界遺産登録により群馬県が全国から注目される中、上電沿線にもこれを活かし賑わいを取り戻せないか考えさせられる機会となりました。(河合雅章)



第二部では、代表メンバーの一人としてご挨拶、そして今年の活動報告をさせていただきました。

今回の会報でもお知らせのある、友の会の Facebook ページの開設、また上電各駅でのクリーンボランティア活動の推移、廃線跡ハイキングや、ただ今開催中のスタンプラリーのお知らせ...などなど。私は、夏のビール電車、秋の鉄道フェスティバルについてご報告致しました。ビール電車、こちらは友の会が例年開催している夏の風物詩ですが、昨年は SUPER BELL "Z" の野月貴弘さんをゲストにお向かえしての豪華ビール電車に！詳細は前回の会報をどうぞご覧くださいませ。

そしてもう一つ、10月に日比谷公園にて開催された「鉄道フェスティバル」鉄道チャンネルブースにて企画された生放送番組内で、20分程お時間をいただき、上電広報の増野泉さんと共に、上電をPRして参りました。また、前橋高校の皆さんの作品が特別賞を受賞なさった、全国高校鉄道模型コンテストの報告もあり、充実した一年だったのではないかと思います。



私個人としても、今年も引き続き SUPER BELL "Z" での活動と共に、各イベント等でも上電のPRをして参りたいと思います。(堀込聖美)

ぷ 線路は続くか プラレールダッシュ

職場の向かいに座る彼と上電イベントに「プラレール」を、と雑談したのは一昨年。彼は昨年4月に私の机前を去ってしまったが、初冬に話題が再燃した。役員の一人は Facebook に不要プラレール募集案内をうpした。別の役員も同僚から不要レールを集めた。大胡車庫にはコンパネ5枚が用意された。2015年の会も同調してくれた。当初はゼロコン(400m)競争を目指したが、結果的に3線7m長のコースが出来上がり、1月3日を迎えることとなった。

プラレール車両は消耗品である。レイアウトは会が準備して、車両は子供たちが持ち込む「上下分離方式」なら継続出来そうである。次回は早めに周知すれば楽しんでもらえそうかな、という展望が見えたところで新春イベントを終えた。どうぞご期待下さい。

(新保正夫)

★公共交通とまちづくり講演会
2月10日 13:30~ 前橋プラザ元氣 21
LRTの可能性も！ 主催：前橋市



11月29日(土)、友の会企画によるバスハイク「筑波鉄道廃線跡めぐりと流鉄乗車」が約30人の参加を得て開催されました。今回は、廃止後30年ほどが経つ筑波鉄道の雨引・紫尾(しいお)間約8kmを歩いたのち、赤城山との所縁がある流山・馬橋間を結ぶ流山鉄道に乗車する旅です。筑波鉄道は、岩瀬駅南側から常磐線土浦駅を結んでいましたが、昭和63年に廃止になりました。現在、線路跡は茨城県の県道「筑波リソリンロード」として整備されています。バスで大胡駅を7:45に出発後、北関東自動車道を桜川筑西インターまで走り、まずはJR水戸線岩瀬駅を訪ねました。岩瀬駅では、跨線橋に筑波鉄道ホームへの通路跡を見つけたのち、大きく左カーブを描き土浦へと向かっていた線路跡探検を始めました。各駅にはホームも残されており往時の駅前風景も想像できます。ハイキングは、旧雨引駅をスタートして左手に加波山、筑波山を眺めつつ山麓を紫尾を目指しました。駅前商店の建物が残る東飯田、場内信号機の基礎も残る樺穂駅跡を通り、真壁駅跡に着いたところで雨が強まり、残念ながらハイクはここで中止となりました。バスで筑波駅に移動し、各自持参の弁当で昼食後、常陸北条、常陸小田駅跡にも立ち寄り、往時の鉄道風景を想像しました。その後、国土地理院の地図の博物館を見学、常磐自動車道を流鉄流山駅に向かいました。この頃には天候も回復し、やってきた赤城号で馬橋駅へのミニトリップを体験しました。沿線に筑波研究学園都市などの資源を持ちながら廃止された筑波鉄道と、ミニ産業鉄道から都市通勤路線に変貌した流山鉄道。二つの異なる運命を歩んだ鉄道について、考えさせられる小さな旅でした。(佐羽宏之)



11月30日、北原駅にて、11名の方にご参加いただき、第4回の上電駅クリーンボランティアを実施しました。以前から、待合室に貼られたテープ跡の除去が課題となっていました。今回も、皆さんが色々な知恵を持ち寄り、掃除のプロにも負けない意気込みで清掃に取り組んでくださったおかげで、前回以上の成果が得られたのではないかと思います。

また、今回は、粕川の地元有志の方が飛び入りで参加してくださり、差し入れのコーヒーや茶菓子をいただきながら、交流する機会を得ることができました。この活動は、駅の清掃を通じて、私たち鉄道ファンと地域の方々がつながる機会を作ることもその目標としていますので、大変嬉しいことです。いつも快く協力して下さる皆さんに、心からの感謝を申し上げます。

上電のために、私たちができることを、無理のない範囲で楽しく続けていくこと。微力ではありますが、その積み重ねが、上電という鉄道とその沿線地域をより豊かにし、いつの日か素晴らしい財産となつて次の世代に引き継がれていくと信じています。次回以降も、少しずつスパイスを加えながら楽しくやっていきたいと思っておりますので、皆さんのご参加をお待ちしております。(楠山喬正)



編集後記

時間がたつのは早い物で、慌ただしく過ごしているうちに、気がついたら今年度も残すところあと少しとなってしまいました。忙しいということは、充実した日常であるとも言えるのかもしれませんが、たまにはのんびり、落ち着いてみるよいかもかもしれません。スタンプラリーも実施していることで、のんびり走る上毛電鉄に乗って、気晴らしをしてみようかと思っております。(児玉洋)